

『生育旺盛 中干しの準備を』

1. 水稻の生育状況(あきたこまち)

葉齢から見た生育は「2日程度早い」となっており、前回調査時(6月17日)と同様に草丈、茎数、SPADは平年値を上回っております。生育が順調な圃場では茎数過多の圃場も見受けられます。

現在の生育と今後の週間天気から幼穂形成は平年並み(7/15頃)と予想されますので、各自の圃場状態を見回り、徐々に中干しの準備を進めてください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月26日) ※平年値は最高値と最低値を除いた過去10年の平均

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	41.0	38.6	399	355	9.1	8.8	44.2	43.3
(慣行)	42.4		391		8.9		44.4	
(側条ペース等)	40.1		404		9.2		44.0	
前年比(差)	97%		101%		+0.2 葉		102%	
平年比(差)	106%		112%		+0.3 葉		102%	
たつこもち	39.7	41.8	328	383	9.2	8.8	43.8	44.4
きぬのはだ	38.5	39.9	447	423	9.1	9.2	43.8	42.3
ときめきもち	38.8	38.3	402	391	9.6	8.9	42.9	42.9
サキホコレ	47.7	40.1	506	449	9.7	9.3	43.7	44.8

2. 今後の技術対応

1) 中干し

田植えの早い圃場や田植時に側条肥料を使用している圃場では、過剰分げつ気味の圃場も見られております。圃場を確認しながら葉齢9葉を目安に中干し・溝切りに入ってください。

【中干しの効果】: ①無効茎の抑制 ②根の健全化 ③田面の硬化 等

2) 倒伏対策

中干し後でも「葉色が濃い」「茎数過剰」等により倒伏が心配される圃場は、つぎの薬剤で対応してください。

ロミカ粒剤1成分 [出穂25~10日前 2~3kg/10a、散布後5日間は湛水状態]

3) 病虫害防除

【葉いもち病】

いもち病の防除をされていない圃場では、7月中旬又は初発時につぎの薬剤を散布する等の対策をしてください。

コラトップ1[※]粒剤12・1成分[出穂5日前まで 散布量1kg/10a]

【イナゴ】

イナゴの発生が目立っております。稲の食害が見られる場合は、畦畔沿いを主体につぎの薬剤で防除してください。

①「トレボン粉剤DL」 2~3kg/10a、②「トレボン乳剤」 1000倍~2000倍

※ 圃場でばか苗が見えた場合の抜取りにご協力ください。